

頭(アタマ)を鍛える図解思考教育の実践報告

Report of forging student's brains thorough
Zukai-communication practice course

久 恒 啓 一*
Keiichi HISATSUNE

1. はじめに

本稿では、新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまえ、「日本の論点」(文春)の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術を身に着けるまでの成果をあげている授業実践を報告する。

2. 講義内容

2.1 講義目的

どのような経営体にも経営資源がある、それはヒト、モノ、カネ、時間、情報、システム、技術、人脈、ブランド、理念、歴史などである。ビジネスにおいてはこれらの経営資源をコミュニケーション活動によって活性化させ商品やサービスをつくりだし、それを外部に販売する。そして売った商品に対して、CS(顧客満足)活動によって苦情や意見を消費者から受け取り、再び経営資源を活性化させ、商品を改良し、新商品につなげていく。ビジネスとはこういったコミュニケーション活動の一連の流れのことである。

この講義では、上述の観点からビジネスにおけるコミュニケーションと情報に焦点をあて、今までの文章と箇条書きを中心とした情報処理の欠陥を克服するため、図を用いたコミュニケーションの理論と技術を学ぶ。毎回、産業社会の現場の最前線のテーマを題材に実習を行い「図解コミュニケーション」という新しい問題解決の武器を身につけてもらう。

2.2 講義の到達目標

新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまえ、「日本の論点」(文春)の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要

* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

約する技術を身につける。

自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができるようになる。

2.3 講義内容

この講義はマネジメントデザイン学科の必修科目であり、受講生は毎年 200 人に迫るほど多い。毎回、前日の木曜日に開催された「リレー講座」の講師の講義内容を図解メモを用いて解説している。

実習のテーマは以下の通り。自分自身のことなど身近な題材から始めて、しだいに社会性の高いテーマに移行し、最後は識者の論文を一枚の図解にするというステップを踏んでいる。

以下、学生が授業で取り組んだ図解のテーマを列挙する。

- ・ 図解・自己紹介（経歴・友人・趣味・好きなこと・スポーツ・将来・性格・得手不得手・愛読書・影響を受けた先生・座右の銘・バイト・事件・本・ゲーム・音楽・映画・社会情勢・旅行・サークル……）と話し合い。
- ・ 私の大学生活、この1年（授業・友人・家族・バイト・事件・本・ゲーム・映画・スポーツ・社会情勢・単位……）
- ・ 朝日新聞論壇「大学生の国語力低下を憂う」。図解・小グループでプレゼンと話し合い。
- ・ 図解文章法の解説と実践「どうしたら幸福になれるか」。
- ・ 新聞社説「臓器移植」「原発廃炉」「日印関係」「アベノミクス」。エッセイ・主張・記事。
- ・ DVD「図解表現の技法」（久恒啓一監修）①②の鑑賞。
- ・ 図解広告「アパート経営」「コンサルタンツ」「銀行」「長瀬産業」「メガネ」「カメラ」
- ・ 雑誌・パンフの図解。ミニコミ編集。多摩大学パンフレット。
- ・ 企業理念を図解する。大企業の社長メッセージ（ソフトバンク・楽天・サントリー・日本航空・星野リゾート）と多摩地区の企業（京王電鉄・ベネッセ・多摩信金・京西テクノス・JUKI・サンリオ……）。
- ・ 参院選（2010年）の各政党のマニフェストの図解と議論。小グループ発表。全体発表。
- ・ 参院選（2013年）の各政党の公約の図解と議論。原発・環境・経済・外交・防衛などのテーマで比較。小グループ発表。全体発表。
- ・ パワーポイントによる図解の描き方講座。
- ・ 最終レポート「日本の論点」（文芸春秋社）の一つを図解する。

この授業では毎回出席の確認を兼ねて、A4一枚の自由記述のアンケートを書いてもらっている。授業の理解、疑問点、要望などを整理して配布し、次回の講義の冒頭にこれらの紹介と回答を述べることにしている。

2.4 講義の成果

講義の成果について、各年度の最終回のアンケートのまとめたものが次ページに掲載した一覧である。

マネジメントデザイン論Ⅰ 〈講義を受けてあなたはどのように変わりましたか〉 1

物事に行き詰ることが今まで多数ありました。図を書くことによって解決し、分別がつき考えがまとまる事に気づき、とても人生が豊かになりました。

読みづらい文章を読むとき、物事を考えるとき、頭の中で「図解するとどうなるかな」と思い描くようになった。

価値観や考え方が変わった。しつかり頑張っていこうと思った。

これからの人生で大きな武器となるであろう「図解」に出会うことができた。

選挙に初めて行ってみて、この授業が役に立った。

問題解決学で特に役立った。次の選挙がある時に図解して、どの党に投票するかを決めてみたいと思う。

図解には個性が出る感じた。今回初めて選挙に行ったが、この講義の図解が多いに役立った。

新聞記事も図解にすれば分りやすくなりすごいと思った。

多摩大学でしか受けられない学問を、今後の人生忘れずに、色々な形で応用していきたい。

表現方法の新しい道が開かれた。まだ腕力が「甘い」が、練習するほど「筋力」みたいにがちがちなる。

本を読むのが楽しくなった。

少しはロジカルシンキングに考えられたのかなと感じました。図解しているおかげでニュースを見ていたら、反論が簡単にできるようになりました。

新たに疑問や自分の考え、意見が出るようになった。

パッと頭の中に、物事の簡単な図解が出てくるようになりました。

一度読んで、頭の中で要点をまとめられるようになった。意味の分からない言葉は調べて伝えることができるようになった。

「知識人」の言葉をうのみにしてはいけないと言ったことを、図解を通して証明することができた。

結びつきを見つけ、構造をたてられるようになった。話の幅が広がった。パワーポイントに表現できる力がついた。時事問題などに興味を持つようになった。問題点をみつけられるようになった。他の講義に使えるようになった。

図解が格段に上手くなったと思う。

受けていくにつれて、だんだんまじめに取り組むようになった。

難しい文章を何度も自主的に読むようになった。

就職活動にも有効だということを知れて良かったです。

就活のときに図解を企業に提出しようと思っています。

文章を読むのが好きになった。

毎回授業に出て、成長していく自分が、すごくいいと思いました。

文章自体のレベルも上がっているのに苦も無く図をつくることができるようになった。明らかに力がついたと感じる。

自信がついた。ノウハウが吸収できたと感じる。

図解に出会って自分の幅が広がった気がします。

企業する時に図でビジネスモデルを作りたいと思う。

思考が今までと比べてクリア化した。本の内容がすんなりと頭に入ってきたり、自分のぐちゃぐちゃとした考えがまとまってきたりした。これは大変な成果だと思った。「思考の達人」になりたいと思う。

自分のスキルアップを感じられる程この授業は有益であった。マネジメントへの興味が始めて比べ格段に上がった。

紙面上においての表現の仕方、パワーポイントの作り方が上手くなった。

あまり読まない新聞など読みたいと思うようになった。

使っていない部分の脳を使った感じがして新鮮だった。就職した際にすごく役立つと考えるので、何事も図解を通して考えるよう努めていきたいです。

授業を受けて図をどんどん書いていくうちに、うまくまとめられるようになったと感じた。「知識の享受」と「実践」が同時にでき、理解力がUPしたからかなと思います。

この授業は大変意義のある授業だと思う。自分の考えを整理するときは「図解」です。少し図解との距離が縮み、生活の中の手段の一つとなりました。

マネジメントデザイン論Ⅰ 〈講義を受けてあなたはどのように変わりましたか〉 2

学んだことは、分からないことは取りあえず図にしてみると、分かるという素晴らしいことでした。長文を図解するのは難しかったが、沢山の時間をかけゆっくり図をイメージすればできた。初期より図にすることが早くできるようになっているのを自分でも分かった。この調子で図をマスターしたいと思う。

今まで受けた講義の中で一番面白かった。図解のスキルはこれからの大学生活や社会に出てからも必要になると思うので、図解について知ることができて良かった。

図を上手く描けたときの喜びはすごい。

1回目に比べ格段に図解の技術が上がった。

外国人など、誰かに伝えるとき、図解があると伝わりやすい。

図解はコミュニケーションをはかる最高の道具

図解の基本的なことから専門的なことまで知れた。

論理的な思考が身についたと思う。一見難しそうなお文でも、図を意識することによって簡単な文章に変えて考えることができるようになった。

文章を読んでいたら、頭に図解が思い浮かぶようになった。

問題の下書きが完成したため、細かい部分を削ったり、加えたりした。自分でテーマの読み取りをする際に、事実には○、予測には◇、テーマ□など文章をばらしていったので、図解も苦勞しませんでした。始めが大切だと認識した。

地道に図解を考えて、頭の中で図解をまとめ上げる力をつけたいと思う。

この講義を受ける前と比べると、格段に図解を用いて物事を説明するのが上手くなりました。また文章から要点を抜き出すのも早くなりました。意味のあることを学べたので、今後も更なるスキルアップを目指したいと思います。

図解は簡単ではなく、とても深い物でした。

一つの武器を手に入れた。

別の講義でも図解を使うようになりました。図解は日常生活でも使えるようになったら、とても便利だと感じました。

要点やまとめるのが上手になったと思った。文を読むときの視点が変わった。

図解にすることで、様々な事を大きく見つめることができるようになりました。またキーワードを探すことの大切さを学び、キーワードの取得により、問題解決につながると考えました。図解的に考えることで、視野の広がりが感じることができました。

最後の図解で医療について書きましたが今まで知らなかった日本医療の現状やこれからの問題も発見できました。これから社会に出た時にも今回学んだ「図解」を活かしていきたいです。

私はこの講義で、人生に必要なスキルが身に付いたと思います。

難しい文章でも自分なりの解釈ではなく、きちんと客観的に読み取る力がついたと感じた。授業が終わっても、新聞や論文などで分からない所が出てきたり、講演を聴いてメモをとるときは、図解法をすぐに使えるようになりたいと思った。

自分なりにまとめていくうちにコツを掴んでいくことができました。難しい文章の要点を見つける要領をつかむことができるようになりました。

いずれ先生を超えてみせます。

就活で図解は大きな武器になると思う。この武器を携えて希望の職に就きたい。

格段に物事を説明するのが上手くなりました。文章から要点を抜き出すのも早くなりました。

時事問題もほとんど理解できるようになりました。

レポートを書く前に白紙に考えをまとめるようになりました。

物事を考える際、図解を思い浮かべながら関係性や原因と結果、それらに寄与する要因などを考えるようになりました。

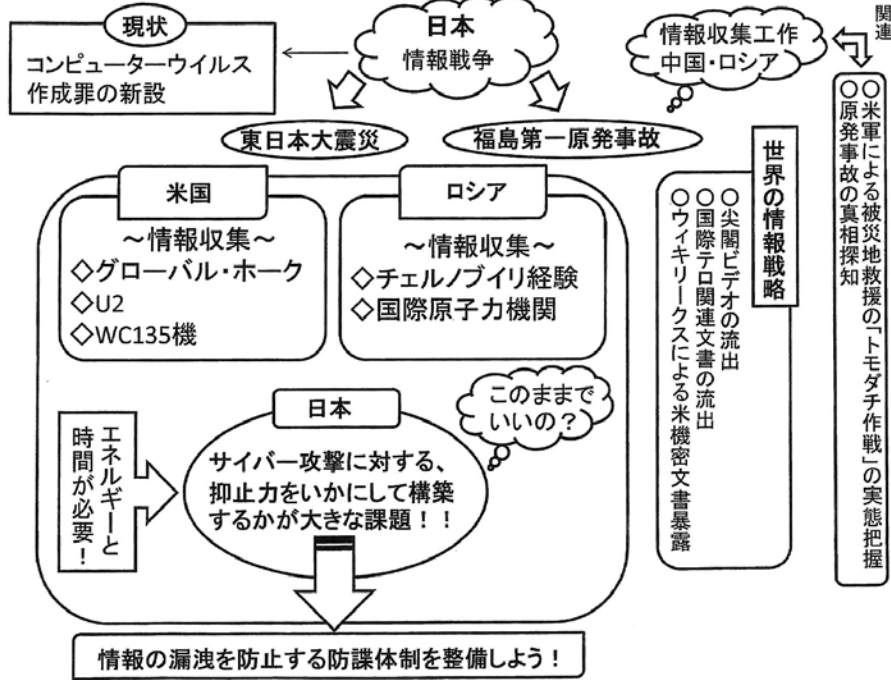
物事を体系的に考えるようになった。図解思考を洗練していきたい。

文章を読む際の読み取りが上達しているのを実践している。図解を武器に歩む気になった。

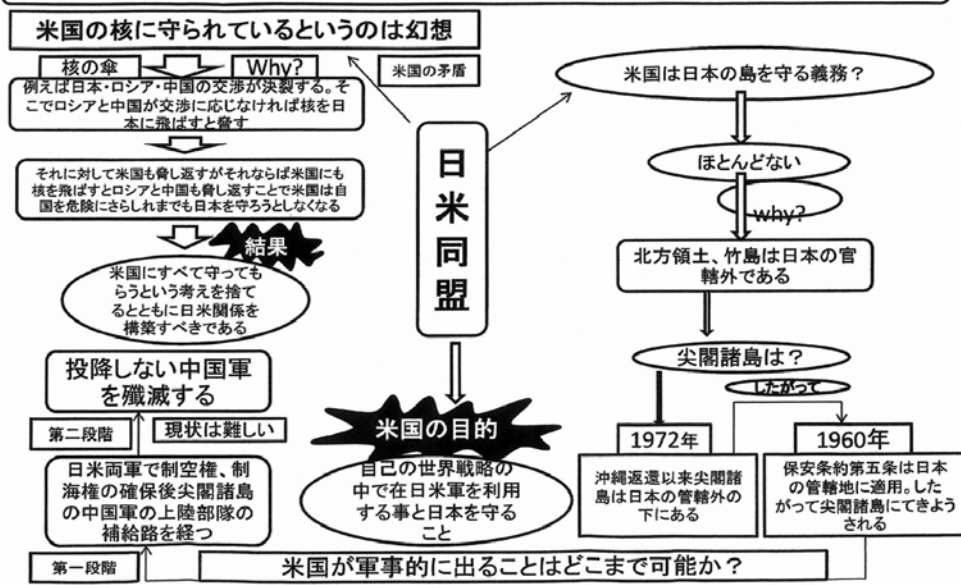
講義の成果として、受講生の描いた最終課題の図解を掲載する。

最終課題は毎年の「日本の論点」(文芸春秋社)の識者の時事問題に関する論考をパワーポイントを用いて図解することである。

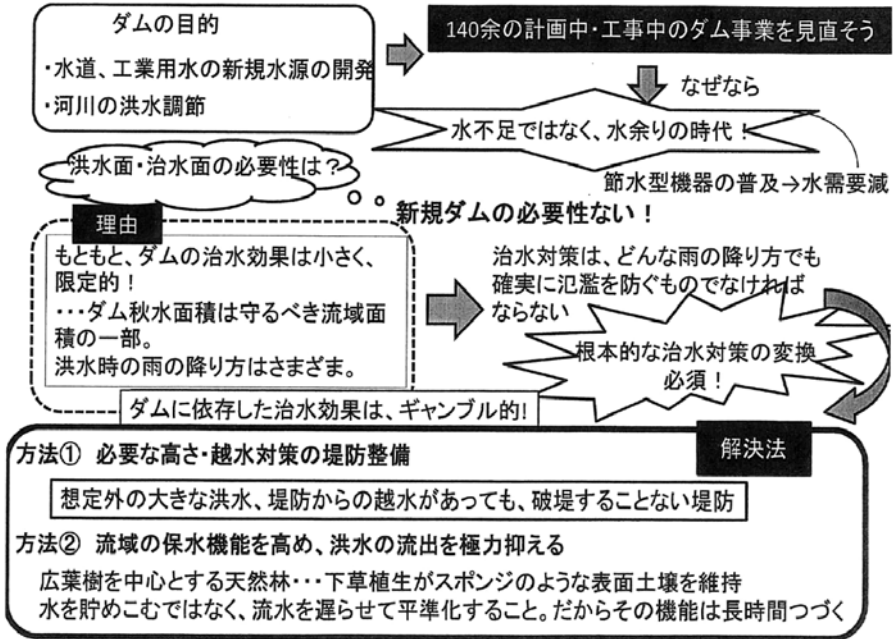
論点・9 戦略なき日本のインテリジェンス-優先すべきは防諜体制の整備である 春名幹男



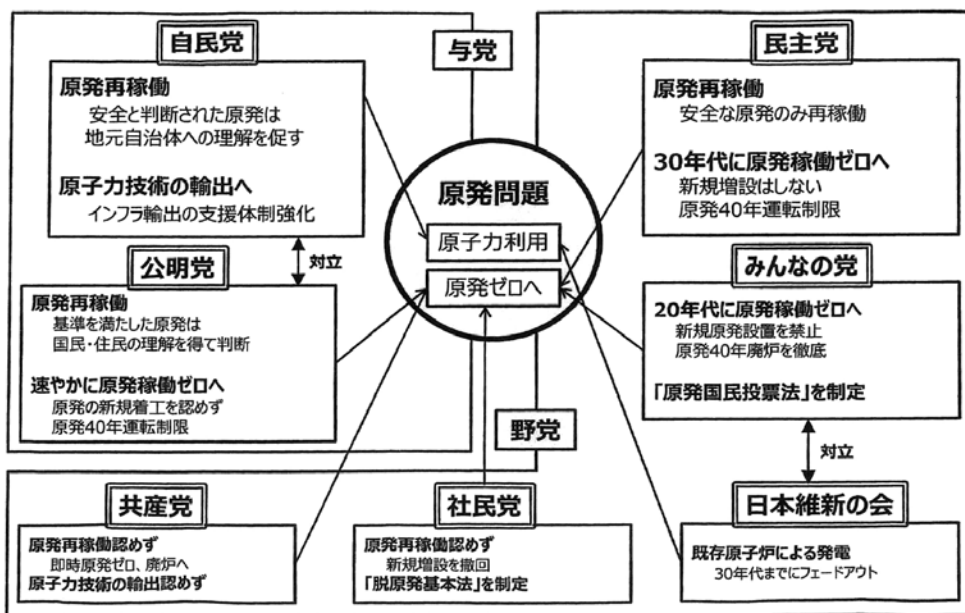
論点10 「日米同盟を絶対視すべからず-米軍が日本を守るとは限らない理由」孫崎 享



論点-32 治水効果が希薄ダムはもういらぬ / 嶋津 輝之



2013年参議院選挙公約【原発に対する主要7党の見解】



2.5 講義に関する自己評価

- ・到達目標である「『日本の論点』(文春)の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術」はほぼ全員が到達している。
- ・もうひとつの到達目標「自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができる」もほぼ全員が到達している。

以上に見るように、「新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまえ、「日本の論点」(文春)の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術を身につける。」「自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができるようになる。」という講義目的は十分に達成していると判断している。

授業評価(VOICE)の「この授業あなたにとって有益でしたか」という最終総合評価は以下の通りである。本来この授業は、少人数受講生を対象に、きめ細かくコメントを付けるなどの指導を行うゼミ型の授業であるべきところ、受講希望者が多いために大人数の授業になっており、一人ひとりの指導は不十分にならざるを得ないところがあるが、受講生の評価はまずはある程度の水準は確保していると判断している。

5点満点。

2011年	マネジメントデザイン論I	3.98	履修者数	214人	
2012年	マネジメントデザイン論I	3.84	履修者数	264人	回答者数 168人
2013年	マネジメントデザイン論I	3.92	履修者数	185人	回答者数 104人

以上にみるように、「図を用いたコミュニケーションの理論と技術を学ぶ。毎回、産業社会の現場の最前線のテーマを題材に実習を行い「図解コミュニケーション」という新しい問題解決の武器を身につけてもらう」という講義目的は、かなりの程度達成していると判断している。

3. まとめ

毎回行う実習に真面目に取り組んだ受講生は、元々自己表現力が弱いと感じている人が多いが、毎回のアンケートにみるように、しだいに図解思考と図解表現を身につけ、社会で戦う武器を身につけたという感覚を持つまでになっていることを報告したい。